

信州から発信!

働く馬と



人とのつながり

2019年 10月26日(土)、27日(日)

松本大学および近隣圃場にて開催



大会プログラムタイムテーブル

信州から発信!

10/26 (土) 10時30分~16時

10:30~16:00 座学と実習 ~働く馬の調教~

■定員:30人 ■参加費:5,000円 ※事前申し込みが必要です。
■場所:松本大学5号間511号室 会場案内図 A

馬を扱う方、興味がある方を対象に、馬の調教の基礎について、座学と体験実習を通して学ぶ機会とします。

① ものの引かせ方の基礎

- ・ロングレンドライビングの基本
- ・ハーネスの力学・種類・装着
- ・調教および用具とその使い方等

② ものの引かせ方の実習

- ・空馬の徒歩ドライビング(発進、前進、停止、後退、旋回、信地旋回)
- ・ものを連結する
- ・タイヤや犁を引かせる

■講師:岩間敬(一般社団法人馬搬振興会)、波多野幾也(おはぎ企画)、中川剛(木曾馬の里)、横山晴樹(うまや七福)

働く馬と 人のつながり

17:00~ 交流会

■定員:80人 ■参加費:3,000円 ※事前申し込みが必要です。
■場所:松本大学カフェテリア(3号館4階) 会場案内図 B



10/27 (日) 9時30分~16時

9:30~11:30 デモンストレーション ~プラウを使った馬耕~

■26日の参加者は体験ができます。 ■見学無料 ■場所:松本大学近隣の圃場

13:00~16:00 シンポジウム テーマ: 信州から発信! 「ブドウ畑」×「馬」元年!

■定員:150人 ■参加費:無料 ■場所:松本大学5号間511号室 会場案内図 A

フランスではブドウづくりに馬たちが活躍しています。ヨーロッパでは馬たちはどのように暮らし、働いているのでしょうか? また社会でどんな役割を担っているのでしょうか?ヨーロッパと日本の架け橋的存在であるヴァージニア・クユミジャンさんにフランスの働く馬について話していただき、実際に馬を扱っているフランスの技師の方にもお話を伺います。すっかりワインが定着した日本で、馬耕によってブドウ畑を耕す取り組みが始まろうとしています。信州から、新たな働く馬と人の関係を探ります。

■講師:クリステヌ・サレ



1976年生まれ、父がスポーツホース、トロッターの生産者で、幼い頃から馬と親しむ。若くして馬丁/ハーネスレースのドライバの資格を取得し、バリの競馬場で働き、フランスにおけるトロッターの最大レース、Prix d'Amériqueで三位の馬Arnaqueurの世話も行う。1999年にルマンのArche de la Nature(馬を調教するための公共施設)で重種馬と出会う。そこで3年間農業や馬車関連の仕事、その後同施設で10年間リカールと一緒にフランス全国で馬搬の仕事に従事。現在は馬の調教、預かり、売買、ぶどう畑の作業、馬搬の仕事を行っている。パートナーである馬はベルシュロンのメス2頭、ウルストラとドオベト。

格を取得し、バリの競馬場で働き、フランスにおけるトロッターの最大レース、Prix d'Amériqueで三位の馬Arnaqueurの世話も行う。1999年にルマンのArche de la Nature(馬を調教するための公共施設)で重種馬と出会う。そこで3年間農業や馬車関連の仕事、その後同施設で10年間リカールと一緒にフランス全国で馬搬の仕事に従事。現在は馬の調教、預かり、売買、ぶどう畑の作業、馬搬の仕事を行っている。パートナーである馬はベルシュロンのメス2頭、ウルストラとドオベト。

■講師:ヴァージニア・クユミジャン



英国ロンドン大学東洋アフリカ学部日本語科卒業。証券アナリスト、ジャーナリスト、翻訳者、通訳者などとして働きながら20年間日本で生活。2002年フランスのベルシュ地方に移住し、フランスのベルシュロン協会の翻訳及び通訳を担う。2011年からフランスでの世界ベルシュロン大会の国際担当。2012年以後、世界のベルシュロン協会及び生産者との交流を通して国際的なネットワークを構築。アメリカの「Draft Horse Journal」をはじめとするメディアで情報発信を行っているほか、各地の馬関係者への情報提供や相談にも応じている。2008年、初めて北海道・帯広のばんえい競馬を訪問。以後、日本の馬生産者、関係者とも出会い、知識を深めている。現在の1番の課題は、今の世の中で馬をいかに活かせるか。

し、フランスのベルシュロン協会の翻訳及び通訳を担う。2011年からフランスでの世界ベルシュロン大会の国際担当。2012年以後、世界のベルシュロン協会及び生産者との交流を通して国際的なネットワークを構築。アメリカの「Draft Horse Journal」をはじめとするメディアで情報発信を行っているほか、各地の馬関係者への情報提供や相談にも応じている。2008年、初めて北海道・帯広のばんえい競馬を訪問。以後、日本の馬生産者、関係者とも出会い、知識を深めている。現在の1番の課題は、今の世の中で馬をいかに活かせるか。

■講師:ジャンバチスト・リカール



61才。若い時、機(きこり)と石工を勤めた。1996年から馬搬サービスの企業を立ててフランス全国で仕事をした。この数年双子の息子も一緒に仕事をするようになった。

2018年に一応定年退職したが相変わらず仕事を進めている。最近馬搬だけではなくぶどう畑の作業、そして自治体の作業(公園スペースの草取りや破砕、リサイクルゴミ集め等)もしている。次世代の育成を行っている。

数年前からフランス全国に馬力を広く展開するべく活動し、テレビや雑誌の記事にもよく出ている。クリステヌ・サレは彼の弟子である。レジャーでは馬車もやっている。作業のパートナーである愛馬は主にコントワ種。

大会会場のご案内

松本大学 (北新・松本大学前駅から徒歩2分)
〒390-1295 長野県松本市新村2095-1



1日目の実習会場、 2日目のデモンストレーション

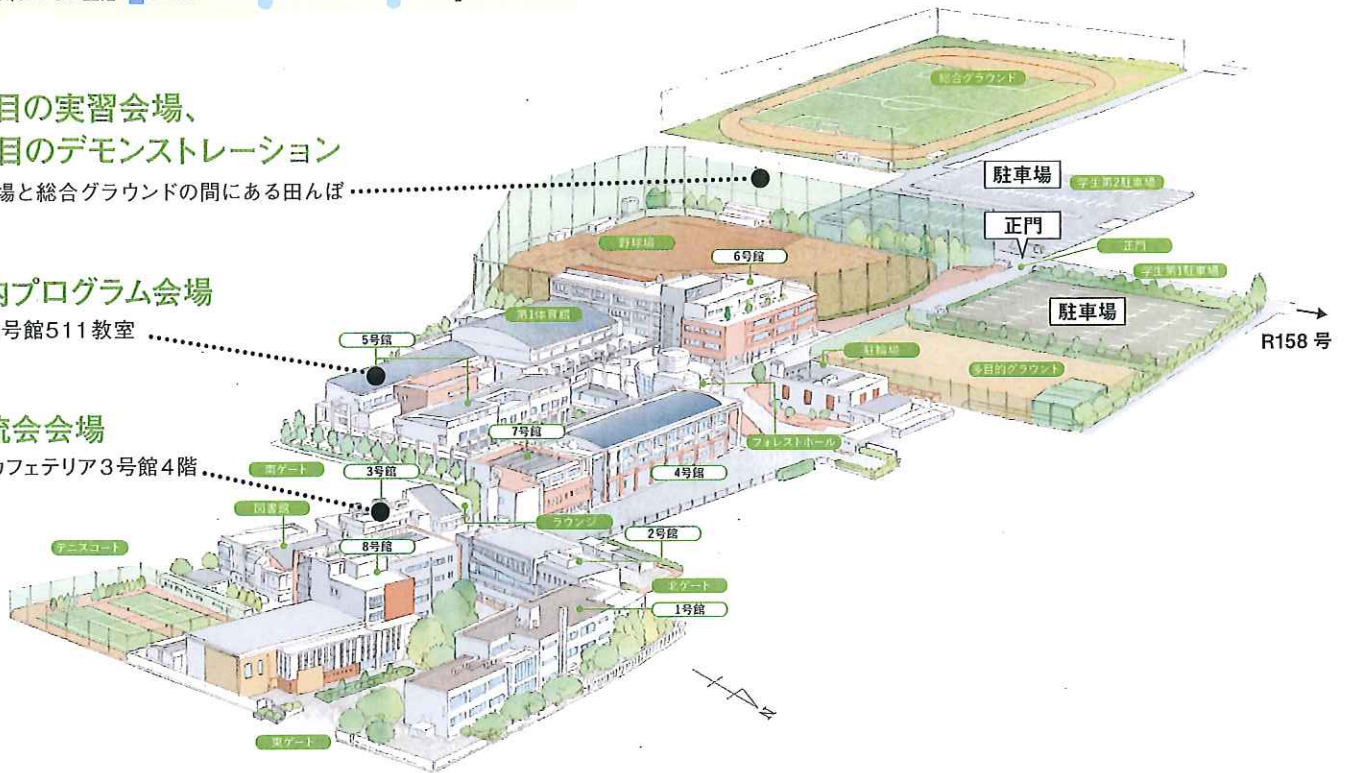
野球場と総合グラウンドの間にある田んぼ

室内プログラム会場

A 5号館511教室

交流会会場

B カフェテリア3号館4階



お申し込み・お問い合わせ お申し込み締め切り:10月18日(金)

馬と人の結びつきを考える会 第2回大会実行委員会

<https://facebook.com/umatohito.musubi/>

※申込書をダウンロードの上、Eメールまたは事務局へFAXをお送りください

Eメール umatohito.shinshu@gmail.com

<https://www.instagram.com/umatohito.shinshu/>

事務局

松本大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 中島弘毅研究室

住所: 〒390-1295 長野県松本市新村2095-1

TEL: 0263-48-7342 / FAX: 0263-48-7290 (松本大学代表)

携帯: 080-1133-0345



主催: 馬と人の結びつきを考える会
第2回大会実行委員会

後援: 長野県松本地域振興局 / 松本市 / 松本市教育委員会 / 安曇野市 / 安曇野市教育委員会 / 新村公民館 / JA松本ハイランド新村支所 / 松本大学 / 一般社団法人馬搬振興会 / (公社)全国乗馬倶楽部振興協会 / 長野県畜産会 / 木曾馬保存会 / 小林愛馬会 / 第2コムハウス・ゆい / 山望苑 / (公財)自然農法国際研究開発センター

協賛: (株)亀田屋酒造店 / (有)ミヤサカ印刷 / 楽蔵びあの

協力: 信州ウマの会 / あずみ愛馬会 / うまや七福 / おはぎ企画 / (株)柳沢林業 / 木曾馬の里 / (一財)C.W.ニコル・アフアの森財団 / アルプスあづみの公園管理センター / 馬耕体験プロジェクト / 安曇野市豊科郷土博物館 / 地球宿 / (公財)松山記念館 / ゆるやかネットワーク

- ◆本イベントは(公社)全国乗馬倶楽部振興協会による「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業一令和元年度多様な活用等の取組みを支援し、発展させるための事業一」の助成金を受けて実施しています。
- ◆イベント会場および駐車場、周辺道路における事故・盗難・破損等のトラブルにつきましては一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◆当日スタッフがイベントの様子を写真・動画撮影させていただき、イベント報告や今後のイベント告知などに使用させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。